

# 中国における纏足についての研究

大阪信愛女学院短大 川端厚子

**目的** 中華人民共和国では、古くから数世紀にわたって女性が纏足をするという奇妙な習慣があった。現代では、この習慣は存いが、高齢の女性には、まだ、纏足が見られる。この纏足に興味を持ち、纏足がどのような方法で施術されているのか、また、どのような足形に歪められているのかを調査した。纏足の女性は、夫にも、それを見せたいと言われているが本調査において纏足の施術をした足を見ることに成功し、マルチン計測器で測定した。ここに、貴重なデータを取得することができたので報告をする。

**方法** 河南省の鄭州市および老鴉陳郷下坂楊村において纏足の女性を訪問し、面談して纏足の施術の方法や纏足による精神的、肉体的苦痛などについて聞き取り調査をした。また、纏足の行われた時代背景の政治、社会、文化について研究した。さらに、マルチン計測器によって足長、足幅、周径など8項目にわたり計測しデータを解析した。また、纏足の足に墨汁をつけて足型を採取し、纏足を施していない現代中国人の足型と、どのような相違があるかを比較検討した。纏足靴や纏足靴下や緊縛布などの資料収集もおこなった。

**結果** 現代中国の女性の足長(踵点-足先点)は、標準で220~240cmである。しかし、纏足の女性の足長は、10.0~15.0cmであった。纏足の施術は、3~4歳の頃から始める。施術の方法は、足の第1指(親指)を除いて第2指から第5指までを足の裏側に折り曲げて布できつく巻きつけ、その上に布で作った靴をはき、さらに纏足靴をはいている。長径方向に成長を止められた足骨は、舟状骨、第1楔状骨、中足骨が盛り上り、かかとで歩行するために踵骨が円錐形に変形し異様に大きく発達していた。